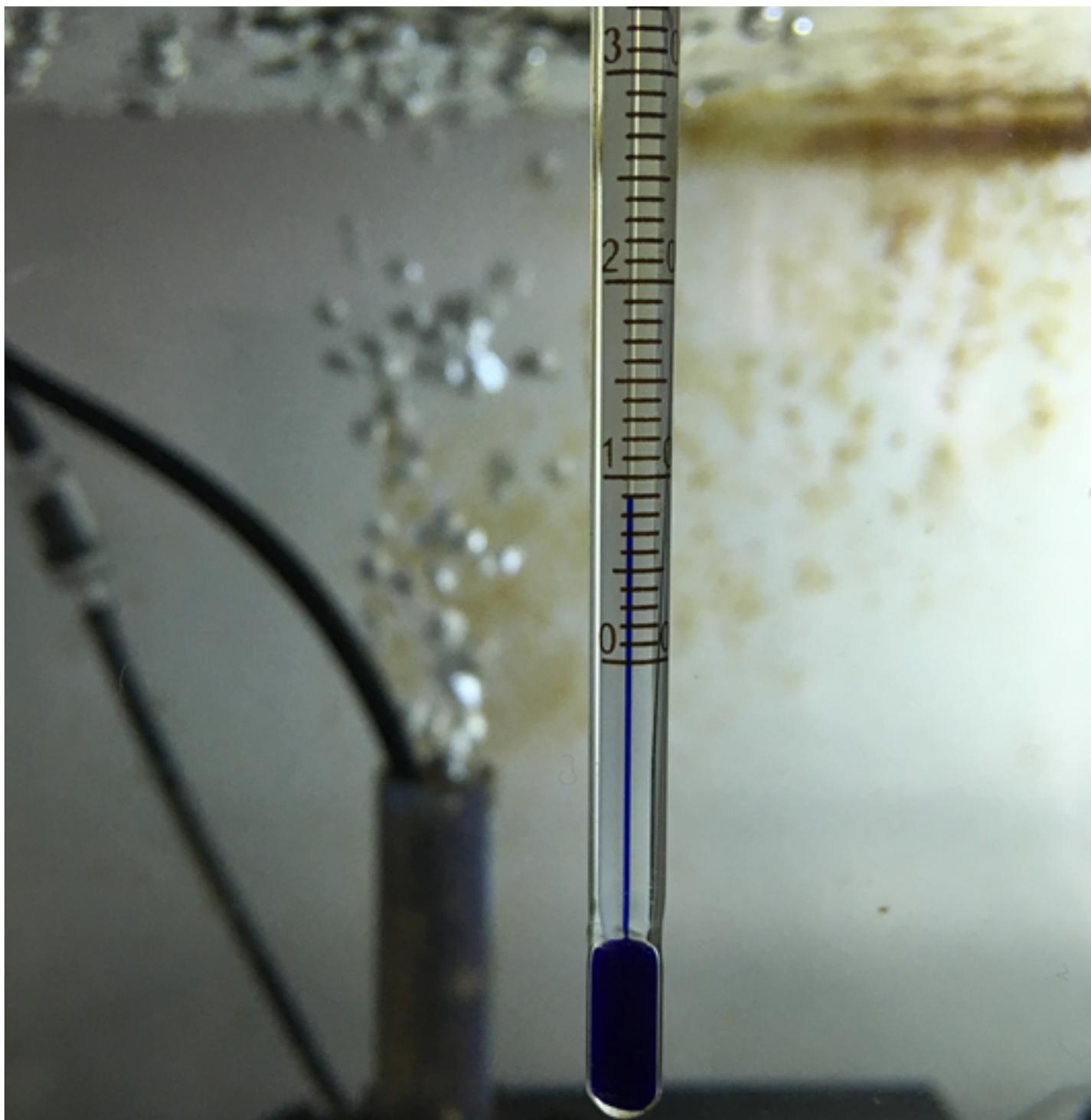


Water Temperature。



まだまだ寒い日が続く今日この頃で、我が家の水槽も10℃を超えるまであと少しといったところである。水温が上がらないこの季節は餌やりを控えていることもあるが、金魚たちは余計な力を使わないように活性を落とし、水槽の底のほうでじっと暖かかった日々を懐かしんでいる。しかし、水温が低からうが、活性を落としていようがすきあらば餌を探すのが金魚たちの仕事であるから、飼い主から餌を投入してもらえないこのシーズンはずさぞかしつまらないことだろう。そんなときに水槽飼育ではいつも厄介者であり、どこからともなく現れ、飼い主達を困らせている彼らが金魚たちにとって貴重な餌となり、栄養源になるのだ。救世主といえは大げさかもしれないがそんな彼らとはそう、苔である。

苔と一言で言ってしまうれば簡単であるが、いろいろな種類が存在する。簡単な名称で分けると水槽内によく現れるものでは茶苔、緑苔、黒ヒゲ苔といったところであろうか。何も自慢できることではないのだが、我が家の水槽は黒ヒゲ苔と非常に相性がよい。通常の我が家の餌きり前の水槽では週に一度、三分の一程度換水するのだが、それと同時にガラス面に付着している苔を削ぎ落とす作業を行っている。苔が大量発生する前に削ぎ落としていくのだ。

SPEC

水槽 : W450×D300×H300
水量 : 38L
濾過 : スポンジフィルター×2
照明 : フラットLEDブラック1200
底床 : ブラックホール1kg
ヒーター : なし
エアポンプ : ハイフローC-8000

river snails。



そうしておくことで、水槽内の苔の繁殖はおとなしくなり、バランズが保たれているのだが、寒くなるシーズンに突入する前ごろからガラス面等に付いた苔は落とさずにそのままにしておく。そうすると、あつという間に苔は大繁殖する。

我が家の水槽の場合は黒ヒゲ苔がスポンジフィルターやガラス面に、はたまた金魚たちのタンクメイトである、ヒメタニシたちにも発生する。ヒメタニシは自分の殻にも苔を生やししながら、水槽内の苔を食べてくれている。非常にややこしい。この苔の生えた状態のヒメタニシの見た目は割りと気に入っているのだが、我が家の金魚たちは少し水温が上がリ、活性が上がると、この黒ヒゲ苔をまるで麺類をすすめるかのように口の中へ吸い込み、のどの奥の咽頭歯ですり潰す。ただ黒ヒゲ苔はアクアリストなら覚えがあると思うのだが、かなり根強く、ちよとやそつとでは千切れない。そこで金魚たちは口に含んでから、回転しながら千切っていくのだ。タニシたちに付着している黒ヒゲ苔も・・・見ていて申し訳ない気持ちになるのだが、水槽掃除もしてくれて、餌の手伝いもしてくれているヒメタニシには全く頭が下がる思いである。

しかし、タニシたちのがんばりだけではまだまだ足りない苔まみれの水槽をそろそろ大掃除するかと思うと少し気が重い。